

奥多摩の低山歩き 鹿倉山～大寺山

実施日 2014年5月18日(日)
 天候 快晴
 リーダー 石原 勝正
 参加者 齋恵美子、一柳昭、涌井良明、島本陳重、白石恵美子、石附智恵、渋谷京子、伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代、齋藤伸二郎、松丸恵美子、松沢力、小名秀鋭、佐藤政司、滝沢きよの、石附恵理子、井出美緒、川上忠江 計19名
 費用 JR 1,280円(立川起算)
 1,590円 計2,870円
 タイム 役場前広場(10:30~10:50)マリコ橋(10:50~11:50)大丹波峠(11:55~12:40)林道合流点(12:40~13:10)昼食(13:10~13:45)鹿倉山(13:55~14:50)大寺山(15:00~15:50)深山橋BS(16:04)奥多摩駅(16:40)

天候 快晴

会報では午前8時に立川駅に集合し青梅線ホリデイ快速に乗車する予定であったが、今回も19名の参加申し込みがあったことと、他の登山客を含め奥多摩駅からのバスの大混雑が予想されたことから、集合場所を奥多摩駅9:30分発丹波行きバス停前に変更する。

予想通りバス一台に乗り切れないほどの登山客がバス停前に並んだが、全員時刻どおり集合して増発便に乗車する。

役場前バス停～マリコ橋～大丹波峠
 丹波バス停で下車し、丹波川を渡り役場前広場に集合。出発前のトイレタイムを済ませ参加者が19名と多いためA班、B



班の二つのグループに編成する。A班の先導はリーダーの自分、B班の先導を島本さんに依頼して出発する。今日入会したばかりの新会員の川上さんにはまだ山歩きが慣れていないのにより、A班の先導の次に歩いてもらう。

集落内の道標に従って舗装道路をしばらく歩きマリコ橋(鞆子橋)



を渡り、砂利道から養魚場内を通過した沢筋の道が登山口である。養魚場のおじさんに挨拶しようとしたら黒犬2匹に吠えられて、早々と養魚場を離れる。



しばらく木々の生い茂った沢沿いの道を登ると大雪の影響かかなり登山道も荒れて

しており崩落しそうなザレ場や古い木橋を通過するなど、足元もやや不安定のこともあり普段の山行よりゆっくり慎重に歩く。間もなく気温も上がり暑くなってきたことから沢筋の涼しい場所を選んで着替えタイムをとる。その後登山道は沢を離れ、植林された檜の中のジグザグの道を登りマリコ橋から1時間ほどして林道との交叉に到達した場所が大丹波峠である。



大丹波峠～昼食～鹿倉山

下山は大丹波峠で若干の休憩をとり、鹿倉山への道標に従い車止めのゲートの下りた林道へ向かう。以前の記憶では林道は開通していなかったため新し

く造成された林道と思われる。

山頂へは大丹波峠から更に1時間以上歩く必要があるため鹿倉山の主尾根に上った場所で昼食をとる予定とする。



しばらく林道
をあるくと再
び登山道に入
り、植林帯の
中のジグザグ
を過ぎて再び

林道と合流し鹿倉山の尾根に上がる。ここで、平らな広い平らな場所を探し約半時の昼食をとる。天気は良く晴れてはいるが昼食の場所は植林帯の中にあり日蔭となっているので、登りの汗が体を冷やすので薄いヤッケを着て昼食を食べる。おにぎり、ポットの湯で作ったラーメン、暖かい味噌汁、コーヒーなど各々が準備したお弁当をいただく。今回も女性の会員からキュウリの漬物や果物など多くの差し入れに感謝する。



昼食後は林道と登山道が交差する道を交互に歩きながら尾根上の二つのピークを越えると林道も工事終点となり、鹿倉山の山頂まで尾根上の登山道が登る。ゆっくりとした上りや下りが続く尾根道を歩きながら、右側が暗い静かな針葉樹の植林帯、左側が萌えるような緑の若葉と明るい落葉樹林と対照的な景色を楽しみながら、最後の緩い上



りを頑張っ
て、三等三
角点のある
鹿倉山の山
頂に着く。
山頂でこぶ
し会恒例の

記念の集合写真を撮る。残念ながら、山頂は樹木に囲まれており、奥多摩湖、三頭山や御前山、七ツ石山から雲取山へ続く奥秩父の山稜などの展望を見ることはできない。

鹿倉山～大寺山～奥多摩湖の深山橋
鹿倉山から大寺山へ向かう尾根にそ
って、若葉の中の登山道を快適に下り



徐々に高度を下げ
る。50分ほどで明る
い白亜の仏舎利塔の
立つ広場にとびで
る。塔は塗装か修理

か工事用の鉄骨が組み立てられており、正面階段を上った所に黄金の仏さまが鎮座している。正面階段で2回目のフォトタイムをとる。

仏舎利塔の広場
から、眼下には
奥多摩湖が広が
り、三頭山や御
前山も展望する



ことができる。大寺山から眼下の奥多摩湖までは、露岩とザレ場の急坂、両側が切れ落ちた崖の痩せ尾根、落ち葉で埋まって歩きにくい道が続き慎重に下る。400メートルほどの行程で奥多摩湖方面の下山口に到達する。

その後奥多摩湖に架る深山橋を渡ってバス停に向かう。

最後に、鹿倉山～大寺山は大丹波峠から鹿倉山に至る登り道で思わぬ林道歩きを強いられたものの、参加者や天候にも恵まれ、後半は快適な明るい若葉の樹林帯を気持ちよく歩く日帰り山行を満喫することとなった。また、参加者皆さんの協力を得て全員無事に下山することができ、感謝、感謝の気持ちで帰路につく。

(記&写真・石原 勝正)

(写真提供・涌井良明/伊藤久雄)